

学校教育目標	洋々たる未来を 光り輝いて生きる力の 土台をつくります ≪誰もが笑顔の 洋光台第二小学校を目指して≫ 「知」話す・聞く力を伸ばし、めあてに向かって諦めずに取り組む子を育てます。 「徳」善悪をきちんと判断し、誰に対しても思いやりのある行動ができる子を育てます。 「体」適切な運動と望ましい食生活を実践し、いのちと体を大切にすることを育てます。 「公」人の役に立つことに喜びを感じ、地域の人たちとのつながりを大切にすることを育てます。 「開」学校を取り巻く環境に目を向け、人とのコミュニケーションを通して、自分の良さを伸ばそうとする子を育てます。			
	創立 51 周年 児童生徒数: 475 人	学校長 高島 典子 主な関係校: 洋光台第四小学校	副校長 神田 雄二 洋光台第二中学校	2 学期制 一般学級: 15 個別支援学級: 知的 1 情緒 1 浜中学校

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	洋光台第二中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <学校生活へ参画する姿勢> <意思決定する力> <言語能力>	洋光台第二中 洋光台第四小 洋光台第二小	自分づくりに関する力 よりよい社会をつくる態度の育成にむけて、9年間の間に小学校では、学校生活へ自ら参画する姿勢を育てていく。年間に小中相互の授業公開を実施していく。

中期取組目標 「だれもが笑顔で生き生きと学校生活を送る 洋二小を目指して」 ・話す・聞く力を伸ばし、めあてに向かって諦めずに取り組む子を育てます。 ・善悪をきちんと判断し、誰に対しても思いやりのある行動ができる子を育てます。 ・適切な運動と望ましい食生活を実践し、命と体を大切にすることを育てます。 ・人の役に立つことに喜びを感じ、地域の人たちとのつながりを大切にします。 ・学校を取り巻く環境に目を向け、人とのコミュニケーションを通して、自分の良さを伸ばそうとする子を育てます。

重点取組分野	具体的取組
豊かな心 担当 教務部・人権・道徳指導部	①道徳教育と人権教育により、心の教育を充実させることから、いじめのない学校づくりを目指す。 ②児童主体のあいさつ運動の実践と、状況に応じたたてわり活動の充実を図ることにより、児童相互のコミュニケーション能力の向上を図ると共に、人権感覚を養っていく。
生きてはたらく知 担当 学習指導部・重点研推進委員会	①資質・能力を明確にした指導と適切な学習評価に努め、カリキュラム・マネジメントを押し進める。 ②生活・総合の重点研を通して、自分たちの思いや願いを大切にしながら問題を発見したり解決したりして、生き生きと学びに向かう児童の育成を図る。
健やかな体 担当 体育部・特活部・保健指導部	①体育学習の一単位時間の充実を図るために、実技研修を通して指導内容の確認と確実な定着を図ることから、体力の向上につなげていく。 ②体育・健康プランをもとに、体力向上に向けた具体的な取組を行い、指導に生かす。
児童支援 担当 児童支援専任	①学校スタンダードの教職員の確実な理解と、保護者との共有を図ると共に、児童支援専任を中心とした児童指導体制を維持していく。 ②担任一人が事案を抱え込まないよう、学年と児童支援専任とのパイプをしっかりと維持していく。
学習支援 担当 特別支援コーディネーター	①学習支援を必要とする児童の保護者との面談や、ケース会議を充実させていくと共に、その情報から専門機関への接続等を踏まえた学習支援体制を整えていく。 ②現有の教員で可能な限りの取り出し指導と、保護者の協力を加えた個別支援を実施していく。
特別支援教育 担当 専任・特別支援コーディネーター・通級	①インクルーシブ教育の視点に立った特別支援体制による児童理解と、個に応じた指導を実践する。 ②横浜型支援センター機能の充実を図り、通級指導教室担当者が協働して担当校のニーズに応える指導を実践していく。また校内支援体制への専門性を生かした指導助言を実践する。
持続可能な学校づくり 担当 副校長・教務部	①SDGsとの関連性を意図した教育活動→総合学習や人権教育などの児童を中心に進める教育活動を実施する。②子どもの社会的スキル横浜プログラムの実践を通して児童を主体とした安心、安全な学校づくりを目指す。
地域・保護者連携 担当 副校長・教務部	①防災・安全に関する校内体制に加えて地域や保護者の参画による体制の充実を図っていく。 ②コロナ禍の状況の推移を見つつ、洋光台地区50周年及び学校創立50周年行事を行うと共に、学校運営協議会への移行を洋光台第二中ブロックで図っていく。
いじめへの対応 担当 児童支援専任・教務部・児童指導部	①月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、早期発見と解決に向けた対策の構築に努める。 ②いじめ防止研修を実施して、全教職員のいじめに対するアンテナを高くすると共に、児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりを行う。
人材育成・組織運営(働き方改革) 担当 副校長・教務部	①メンターチームを中心とした機能を向上させるための自己研鑽を、教務部が中心となり支えることにより、効果的な育成につなげていく。 ②分掌の担当者が自主的な運営をすることと、ミライムを活用することにより、全体での会議を減らしていく。学年内での専門性を生かした授業交換や授業ローテーションを実践していく。